

## 第十三回 「言の葉大賞®」 総評

一般社団法人言の葉協会 代表理事 佐藤 典司

今年のテーマは「つなぐ」でした。応募いただいた作品の中には、さまざまな「つなぐ」がありました。中でも多かったのは、人と人とのつながり、たとえば、両親とのつながり、祖父母とのつながり、友人同士とのつながりなどです。またそれらに加えて、モノとのつながり、知識や経験、時代や世代、そして私たちを取りまく自然とのつながりなどもありました。

そしてそれらは、運動会のバトンリレーのように目に見えるつながりもあれば、大切な人を失くしてあらためてその存在に気づかされるようなつながりもありました。あるいは、もうすっかり忘れてしまっていたつながりや、忘れようとしても忘れられないつながりなど、それぞれが各人各様の「つながり」を見つけ出しつつづつてくれました。

また一方で、つながることによる感謝とともに、途切れることなくつなげていくことの難しさに触れた文章もいくつか見受けられました。いずれにせよそれらは、文

章にすることによって、そして何とか人に伝えようとすることで見出されたつながりのように思えました。

こうして数々の作品に触れてわかったことは、あらためて私たちはたった一人では生きていけないということでした。それが人と人のつながりであれ、何かの事物や自然のようなものであれ、物質的な意味にせよ、精神的な意味にせよ、互いがつながり合い寄り添いあつてはじめて、生きて存在しているということでした。まさに「我ありて彼あり、彼ありて我あり」ということかと思えます。

ふり返れば、今回で十三回目を迎えた「言の葉大賞」も、今回の応募総数二〇、一〇七点を含め、第一回目からの応募総数は二〇万点を数えます。これほど長きにわたり、そしてこれほどたくさんの方々の皆さまからのご支援、ご協力にあらためて感謝申し上げますとともに、こうした皆さまとのつながりを大切に、未来につなげてゆきたいと思えます。